

共育の丘だより 第5号 2016春

山口大学 大学教育機構 大学教育センター ニュースレター



「山口大学は、教えるだけの教育ではなく、
教員と学生、あるいは地域と一体となって
発見し・はぐくみ・かたちにすることで共に高め合い、
未来を拓く『共育』を目指しています」

『2014 山口大学案内』より

共育の丘（山口大学 吉田キャンパス）

巻頭言

平成28年度は、国立大学が法人化されて12年が過ぎ、6年単位で設定される中期目標期間の第3期がスタートする節目の年です。山口大学でも新たに第3期中期目標・中期計画が策定され、平成33年度末までにそれらを実現していくことになっています。

そのために役立つ仕組みの一つとして、これまでの修学支援システムに代わる新しいシステム「自己主導型学修総合電子システム（eYUSDL）」が3月末に納入されました。今後、検証作業や説明会を実施した上で、本格的に稼働を始める予定です。新システムでは、山口大学能力基盤型カリキュラムシステム（YU CoB CuS）や学修到達度調査の結果が表示できるようになっています。また、e-ポートフォリオ機能の強化、ポータル機能の追加もされています。これらは、学生の皆さんが自分の学修成果を確認し、自主的に学修プランを立案できるように、また、教職員の皆さんが助言をしやすくなるようにするための仕組みです。このシステムを十分活用していただくと共に、改善すべき点があればご指摘をお願いします。

また、3月末に中央教育審議会大学分科会大学教育部会から、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドラインが公表されました。これに基づいて3つのポリシーを見直すことが、今年度の全学的な重要課題の一つです。

（朝日孝尚 山口大学 大学教育機構 大学教育センター長）

INDEX

P1 巻頭言

P2 大学教育センターの動き

P3 YC.CAMからのメッセージ

P4 学生FDサミット2016春 参加記

P5 学生FDサミット分科会

P6 筑波大学セミナー参加記

P7 長崎大学*学生意見交換会

& やまぐち探訪記

P8 YC.CAMメンバー募集 & 編集後記

【※本ニュースレターは、（公財）山口大学後援財団「学生の就職支援・教育環境の改善等助成事業」の支援を受け、編集・刊行しています。】

大学教育センターの動き



はじめに

APとは？

APはAcceleration Program for University Education Rebuildingの略称で、大学教育改革を国として一層推進するため、教育再生実行会議等で示された新たな方向性に合致した先進的な取組を実施する大学を支援するというものです。



AP事業成果発表ジョイントフォーラム2016開催！！

平成28年3月14日（月）に『AP事業成果発表ジョイントフォーラム2016～山口・広島地区大学教育再生加速プログラム（AP）採択校の成果発信～』を開催しました。本フォーラムには、山口・広島地区の高等教育機関をはじめ、全国から約100名の参加者が集まり、盛大なジョイントフォーラムとなりました。

冒頭、岡 正朗 山口大学長より開会挨拶と、辻 邦章 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室専門官より、アクティブ・ラーニング及び学修成果の可視化の重要性とともに、山口大学AP事業取組について言及し、より一層の大学教育再生加速の推進について期待が込められた来賓挨拶がありました。

前半の基調講演では、関田 一彦 創価大学教授より、「ラーニングコミュニティにおける学生の『学び』とは～アセスメント科目の設定と効果～」と題して、学習者中心の教育について説明がありました。次に、山口・広島地区大学教育再生加速プログラム（AP）採択校の成果報告では、石川 英樹 徳山大学経済学部長より「徳山大学AL研究所（TUAL）設立」、馬本 勉 県立広島大学学長補佐（教育改革・大学連携）より、「県立広島大学型アクティブ・ラーニング」、林 透 山口大学教育機構大学教育センター准教授より、「山口大学・大学教育再生加速プログラム（YU-AP）における事業成果と今後の方向性」、斉藤 克幸 比治山大学・比治山大学短期大学部教授より、「比治山型アクティブ・ラーニングと学修成果・指標モデル」、最後に、武藤 義彦 宇部工業高等専門学校経営情報学科教授より、「長期学外学修プログラムの展開」と題して成果報告がありました。

後半の協同学習ワークショップでは、関田 一彦教授のファシリテーションにより会場全体を巻き込んだワークショップを行いました。

最後に、朝日 孝尚 大学教育センター長より閉会挨拶として、山口大学・大学教育再生加速プログラム（YU-AP）事業取組をはじめ、山口・広島地区のAP採択校の成果を発信することで、広く高等教育全体に貢献できる情報発信と意見交換ができた事は有意義であったと述べられました。今後のAP事業の展開についても期待が寄せられ、一層積極的に情報発信を行うことが重要であることが確認できるフォーラムとなりました。



協同学習ワークショップ



教育改善FD研修会開催！

平成27年度教育改善FD研修会を全学で実施しました。教育改善FD研修会では、山口大学・大学教育再生加速プログラム（YU-AP）事業取組について、ティーチングからラーニングへのパラダイムシフトという考え方に基づき、「学びの好循環」を創出することをねらいとした、事業取組の報告を行いました。YU-AP事業のテーマⅠ（アクティブ・ラーニング）では、ALポイント認定制度の概要、テーマⅡ（学修成果の可視化）では、学修成果測定の概要についての説明を行うとともに、各テーマの成果について報告を行いました。また、事業の概要説明や各テーマにおける進捗、取組成果などの報告を通じた意見交換を各学部・研究科教員と行い、共通教育を中心とした全学へのアクティブ・ラーニング推進などの課題等について協議する研修となりました。



全学で実施されている教育改善FD研修会

ありがとう、そして新世代へ

～卒業～

YC.CAM創設メンバーである杉元さん、福屋さんご卒業おめでとうございます。お二人のご尽力なしには、今日までの発展はありませんでした。杉元さんは創成科学研究科1年に、福屋さんは山口大学の職員になられるということで、また大学に関わっていただけると心強く感じております。今回は卒業生の福屋さんにこれまでの活動を振り返っての感想と、新代表である奥田さんにこれからの意気込みをインタビューさせていただきました。

卒業生 教育学部 福屋 里紗さん

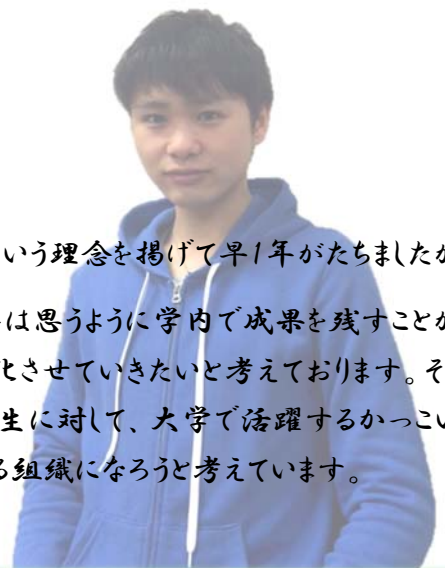
私は大学3年生の秋から活動に参加し、他大学との交流や共育WSへの参加、AP事業の補助など、様々な経験をさせていただきました。これらの活動では、「自分達の大学をより良くしていきたい」という熱い思いを持って活動されている多くの方々と出会ったことが印象に残っています。

学生FD活動は、一般的に「活動の成果が見えにくい」といわれています。活動に携わる学生や教職員の方々にとっては大変なことも多いと思いますが、このような活動がますます発展していけるよう、これからも陰ながら応援していきたいと思っています。



新代表 経済学部4年 奥田 真也さん

YC.CAM代表に就任して半年が過ぎました。山大のデキルを創るという理念を掲げて早1年がたちましたが多くの方と出会い、学ぶことができた1年間だったと思います。しかし、去年は思うように学内で成果を残すことができませんでした。今年の意気込みとしては学内での活動をさらに活発化させていきたいと考えております。そして、山大に必ずいるであろう、チャレンジしたいけど一歩踏み出せない学生に対して、大学で活躍するカッコいい先輩や頼れる職員さんとなげあげること、背中を押してあげられる組織になろうと考えています。



学生FDサミット2016春に参戦！～in日本大学～

川井 希恵（国際総合科学部2年）

学

学生FDサミットというのは、年に2回、夏（9月）と春（3月）に全国各地の大学にある学生FD団体が一箇所に集まり、日頃の成果報告をし合い、お互いの関係性を深め、そして、**学生FD活動について協働して考える場所**です。今回、3月12日・13日に日本大学で開催された、2016年春サミットでは、計500名を超える学生・教員・職員が集いました。「**大学を彩る3原色 足りない色は補えばいい**」というテーマの下、大学に深く関わる3者がよりうまく協働していくことを目指し、**学生・教員・職員**が対等に話し合う“**しゃべり場**”や“**分科会**”が実施されました。ハリーポッターになぞらえたオープニングやわかりやすい学生FDの説明など、初参加の学生にも楽しめるように工夫されていたと感じました。

サミットでは、私たちの活動のアピールの機会も多数ありました。**YC.CAMの活動内容をポスター形式で発表**し、他大学の皆様から、様々な反応をいただきました。また、**分科会**では、学生枠として、**学生FD団体における、よく発生する問題について、ワークショップを行いました**。100名以上の参加者に対してのプレゼンは初めての経験でしたが、この学生FDサミットを通して、近隣大学である**下関市立大学や島根県立大学の学生FD団体と交流を深めることもでき**、これからは中国地方の他大学とも協働で何か活動をできれば良いなと思っています。

学

職

教

2Day Schedule

1日目：3月12日(土)

- ・オープニング ～学生FDとは何か～
- ・ポスターツアー ～各大学の事例紹介～
- ・分科会 ～学教職の連携とは？～
- ・しゃべり場① ～理想の大学像とは？～
- ・1日目のまとめ

・懇親会

2日目：3月13日(日)

- ・しゃべり場②
- ・しゃべり場まとめ
- ・エンディング

これからは近隣の大学同士でも連携して学生FD活動に取り組みたいと思いました！



サミット初参加でしたが、多くの参加者との交流を通して、大きなエネルギーを感じました。各地の大学が普段、どのような取り組みを行っているのかわかり、山口大学も負けなように成果を出していきたいと思いました。



サミットの分科会の1つをYC.CAMが担当！

「何を期待しちよる!？」

「未来の学生FDと3者共創のためのメソッドを提案するワークショップ」



奥田 真也（経済学部4年）

3月12日、日本大学学生FDサミットの初日の分科会において、YC.CAMがプレゼンターとして一端を担いました。テーマは「何を期待しちよる？未来の学生FDと3者共創のメソッドを提案するワークショップ」です。

今回のサミットのテーマである、**学生・教員・職員の連携に合わせた内容＋山口大学での地方創生に絡めたコンテンツ**で約100名の参加者に楽しんでいただきました。前半は**クリッカーによるレスポンス&劇団YC.CAMによる寸劇**、後半はそれぞれの属性に分かれてのワークショップを行いました。ポイントは**他属性に期待すること、自分たちが得意だと思っていることのギャップを埋めること**です。最後のアンケートでは会場の7割から「**ためになった**」と評価を頂くことができました。今後は分科会で頂いた意見を基に、学内での活動に活かしていきたいと思ひます。

分科会：タイムスケジュール

全40分

1. オープニング&クリッカー(5分)
2. YC.CAMによる寸劇(10分)
「大学でうまくいかない学・教・職」
3. グループワーク(20分)
「他属性に期待すること、相手が得意なことのギャップを埋めろ！！」
4. クリッカー&エンディング(5分)



◆◆特に印象に残った意見◆◆

学生：

「資金面や年間スケジュールの作成など長期的な見通しの必要なものはサポートがほしい。」

教員：

「学生は自由な時間が多いから任せても大丈夫という認識があった。」

職員：

「学生からの提案は学校に通しやすい為、企画面で、学生と連携できると実現性がアップする。」

山大にしかできない40分を創ることができました！！



プレゼンターの選考に合格した日は嬉しさと共に、大変不安もありました。少ない準備期間の中で、本当に間に合うのか分からなかったからです。しかし、メンバーで団結し、当日まで改善を加えた結果、分科会は予想を大きく上回る好評となりとても達成感がありました。他大学でもぜひ、学生と教職員が連携を進めていってほしいと思います。今後は、「**山大の学生は1番教職員と連携できている**」と言われる組織作りをしていきたいと思ひます！

国際会議in筑波大学

杉元 茜（創成科学研究科1年）

「学生参画による大学教育の質保証～7カ国の比較の観点から～」

2016年1月23日(土)、筑波大学東京キャンパスにて開催された国際会議、「学生参画による大学教育の質保証～7カ国の比較の観点から～」に参加してきました。この会議では、欧州・米豪・東アジアにおける、学生参画による大学教育の質保証の実態を比較検討し、各国の制度の目的や効果、及び制度運営上の問題などを議論することが目的とされ、そのために6カ国の専門家が招聘されました。

まず、本会議での報告を聞いていく中で、日本と他国との学生参画の度合いの差を強く感じました。大まかに捉えて、他国の学生の活動はほぼ全て大学公認のものであることに加えて報酬が発生することに対し、

日本ではまだそうした制度はあまり整っていません。ならば日本でもその体制をすぐに整えるべきか？と言われれば、私はそうでないと考えます。何故なら、活動が「for university」であるか「for students」であるかによって学生の立場が変化するためです。大学からの依頼を元に活動するか、それとも学生自らの意思により活動を推進するか。その違いが制度の違いにも表れてくるのではないかと感じました。

また、他国の方々が日本での学生参画に興味を持っておられたことが印象的でした。この事からも、日本の活動が他国と少し異なることが窺えます。山口大学での学生参画型FD活動を一層発展させていくためには、今後も今回の国際会議のような場を通して日本国内だけに留まらない広い視野を持ち、柔軟な発想を養うことが必要となると考えます。



Event Contents

- スウェーデンの学生参画 
- フィンランドの学生参画 
- イングランドの学生参画 
- アメリカの学生参画 
- オーストラリアの学生参画 
- 台湾の学生参画 
- 日本の学生参画 

「英語が飛び交う会場にただただ圧倒されました」

会議の中で、学生の活動がシステム化されていることが問題であるという話を耳にしました。学生らが自らの意思で活動を行う上でも、何かを達成することそのものを目的としてはいけません。自分たちはどんな活動を通して、どんな働きをもたらしたいのか、活動を通して得られる効果とは何か。このことを常に意識して、今後の活動を発展させたいと思います。

他国ではより深い所まで学生を参画させようとする動きがあるのだということを肌で感じられたのは大いに刺激になりました。今後も時には海外に目を向け、日本との違いを感じてみようと思います。





学生意見交換会in長崎大学

江角 寛（経済学部3年）

3月28日（月）、長崎大学を訪問してきました。YC.CAMからは学生2名、教員2名が参加をしました。今回の訪問の目的は①長崎大学の学生FD活動を調査すること②来年春に山口大学で開かれる学生FDサミットにどの程度協力してもらえそうかを相談することでした。

まず、長崎大学では「学生による教育改善のための協議会」を組織し、メンバーは各学部からの推薦により選ばれていました。主に学生から授業に対する意見や要望を吸い上げて教育改善にいかす、という学生FD活動がみられました。昨年度は「大学教育を再考する」というテーマで1年生対象にアンケートを実施し、その結果をもとに、今年度は学生発案型の授業をつくることを目標に活動をすすめているそうです。他にも月1回定例会を開き、学生・教員・職員で意見交換などもしていました。

サミットへの協力に関しては、前向きに検討してもらえたように思います。また、下関市立大学や岡山大学とも連携していけたら良いという結論に至りました。

！！次回はぜひ山口へ！！

今回の訪問では、サミットに関するヒントはもちろん、YC.CAMという組織そのものの運営のヒントもたくさん得られたなと感じています。YC.CAMのメンバーはチャレンジ精神が旺盛で、すぐに散らばってしまうのが現状です。しかしそれは長崎大学でも同じで、推薦されたメンバーも忙しい人が大半です。ミーティング日を固定したり、1年を通して行う活動を増やすなど、いかに組織として活動できるのか、まだまだ工夫する必要があるなと感じました。



やまぐち探訪記 第五回（周防大島）

早春、合宿プログラムに参加するため、周防大島を訪れました。日本には、伊豆大島や奄美大島など、「大島」と名の付く島が40以上あると言います。周防大島は、地理的に、広島県や愛媛県に近く、柳井と松山を結ぶ定期航路の経由地となっています。



やまぐち風情とは一味違う雰囲気漂う島ですが、幕末期の第二次長州征伐の四境戦争では、幕府軍と伊予松山藩を迎え撃つ戦場（大島口の戦い）となりました。安下庄地区を歩いてみると、当時、伊予松山藩が一時占領したという寺院（快念寺）が存在します。2016年は、四境戦争から150年を迎えます。周防大島は、長州藩にとって大切な防波堤となっていたのです。

毎年5月頃には、鰯が浜に打ち上げられる安下庄港は良港であり、高台からの眺めは美しいです。瀬戸内の麗らかな風に吹かれ、人やさしく、山海の自然豊かな周防大島に、一度、足を運んでみてはいかがでしょうか
やまぐち探訪の旅は、まだまだ続きます。





Policy

山大的「デキル」を創ります!

Our Works!

共育ワークショップ

山口大学の教育(共育)について
学生・教職員が一体となり共にはぐくむ場
年に一回開催!



共育の丘だより

大学教育センターでの活動や
YC.CAMの活動の広報のため
年に二回発行!



山口大学・大学教育再生加速プログラム (YU-AP)推進事業

2014年秋に採択された全学を挙げての事業
学生・教職員が協働して推進!



SLPOの開発

Student Leader Program
リーダーシップ養成
学習相談会(ピア・サポート)
キャリア学習会(就業力支援)...

学生向けの
新・正課外教育プログラムを
教職協働で創造!



全国を飛び回って 大活躍中!!



Contact!

代表 奥田 真也(経済学部4年)
t062ca@yamaguchi-u.ac.jp
YU-AP推進室
yuap@yamaguchi-u.ac.jp



発行:

大学教育センター

(2016年4月28日 発行)



大学教育センター 林 透
083-933-5067



林 透(担当教員)
toru-h@yamaguchi-u.ac.jp
奥田 真也(代表)
t062ca@yamaguchi-u.ac.jp



<http://www.epc.yamaguchi-u.ac.jp/>

編集チーム

林 透

(大学教育センター准教授)

河島 広幸

(大学教育センター助教(特命))

河口 美由紀

(YU-AP推進室)

杉元 茜

(創成科学研究科1年)

福屋 里紗

(教育学部卒業生(山口大学職員))

奥田 真也

(経済学部4年)

江角 寛

(経済学部3年)

川井 希恵

(国際総合科学部2年)

! 編集後記!

今回、私が代表に就任して初となる共育の丘だよりの編集は、過去の先輩方の軌跡を振り返る貴重な体験でもありました。過去の記事の出来栄にはまだまだ追いつけません、少しでも大学改善につながるよう努力していきたいと思えます。さて、今回の目玉は何と言っても学生FDサミットでの分科会ですね。とても苦労しただけに大きく組織を飛躍させるものとなりました。分科会当日まで内容の変更が重なり、最後までどうやったらもっとうまくいくのかを考えていました。終わってみればあつというまででしたが、他大学との交流も深まり、山大到関心を持ってもらえることも多くなってきたように思えます。そして、今後は大学外での活動だけでなく、大学内でも変革のモデルケースとして認知されるよう、山大的デキルを創るという私たちの理念に違わない活動に発展していけるよう、新代表として頑張っていきます。

[YC.CAM新代表 奥田 真也(経済学部4年)]